幼稚園より

卒園礼拝
3/ 7木

終業礼拝
3/14木

卒園式
3/15金

入園式
4/12金

母の日礼拝
5/20月

初等部より

卒業礼拝（6年生のみ）
3/ 6水　9:10～9:40　米山記念礼拝堂
説教　小澤 淳一（初等部宗教主任）

6年生を送る礼拝
3/12火　8:25～8:50　米山記念礼拝堂
奨励　五十嵐 由起子（初等部教諭）

イースター礼拝
4/23火　8:25～8:50　米山記念礼拝堂

お母さんへの感謝の集い
5/15水　11:00～12:00　青山学院講堂

中等部より

卒業礼拝
3/13水　8:30～9:30　青山学院講堂

CF（クリスチャン・フェローシップ）活動
4/ 6土　校内清掃奉仕活動

イースター礼拝
4/23火　9:20～10:30　青山学院講堂

母の日・家族への感謝の日礼拝
5/14火　10:20～12:00　青山学院講堂

高等部より

卒業礼拝
3/ 7木　高等部PS講堂

イースター礼拝
4/22月　高等部PS講堂

保護者聖書の集い
4/26金 5/24金

伝道週間
5/13月－17金

表紙写真
大学卒業礼拝を終えて、談笑する卒業生。

説教

向こう岸を目指して

マルコによる福音書　第4章 35-41節

山元 克之
高等部宗教主任

春の香りがしてきました。進級、卒業の季節です。人生の新たなステージが迫ってきています。とりわけ卒業をする人たちは今いる場所から次のステージへ、その事から逃げることはできません。

マルコによる福音書4章で主イエスは、夕方、弟子たちを舟に乗せて「向こう岸に渡ろう」とおっしゃったと記されています。夕方ということはもうすぐで辺りが真っ暗闇になるということです。今のように電気がある時代ではありません。それでも、そのことを承知で主イエスは弟子たちに、真っ暗闇の湖に向かって漕ぎ出せと言われるのです。今まさに、新しいステージに向かって、それぞれの舟をこぎだそうとしている皆さんと弟子の様子が重なります。

この聖書の箇所の前には「おびただしい群衆が集まって」主イエスのお話を聞いていたことが記されています。主イエスの目的は神の国の宣教、もっと平易な言い方をすると、お話を聞いてもらうことが目的でしたから、大成功を収めていたのです。

「向こう岸に渡ろう」という聖書の言葉は、そのような、自分の居心地の良い、よく知った場所から旅立って、新しい暗闇に進み出ようと主イエスはお語りになっているのです。

聖書は現状維持を求めません。常に旅立つこと、暗闇の中に舟を漕ぎ出すことを求めます。それぞれの舟を向こう岸へと漕ぎ出すことが求められます。光ひとつない、前後左右もわからない暗闇は怖いです。不安になります。それに加えて、私たちは弟子たちがそうであったように、闇の中で起こる嵐にパニックを起こすことがあります。嵐、それは自然現象の嵐だけではなく、私たちの人生における試練を表しているともいえるでしょう。

聖書の伝える神様は、信じたら安全運転の人生を導いてくださる神様ではありません。弟子たちは、主イエスの言葉に従ったら、暗闇の中で嵐にあったのですから、むしろ、嵐へと導く神でもあります。

宗教改革者のルターという人が「神が試練を与えない場合があるとしたら、それは十の試練に出遭うよりも恐ろしいことである」と言っています。向こう岸に漕ぎ出すとき、私たちは試練に遭います。しかし、その試練にあう場所に主イエスは共におられます。舟の中に確かにおられます。いや、試練こそ主イエスが共にいてくださる証拠であります。目には見えない。まるで沈黙し眠っておられるようであっても、でも確かに、暗闇の嵐の中で誰よりもあなたの側で神が共にいてくださることを聖書は告げています。

「向こう岸に渡ろう」とあなたを新しいステージへと送り出す主イエスは、あなたと同じ舟に乗っておられます。暗闇の恐怖の中で、不安の中で、嵐の中で、主イエスは同じ舟に乗って、あなたのことを確かに支えておられます。その確信をもって次のステージへ、暗闇へと舟を進めてほしいと願っています。

皆さんにとって向こう岸とはどこでしょうか。そこへの舟旅は決して楽なものではないかもしれません。でも大丈夫。嵐が来ても、暗闇でも、そこにいてくださるのが、聖書の神なのですから。

「向こう岸に渡ろう」　新しいステージへ進もうとしている皆さんに向けて語られる、主イエスの言葉です。

デューク大学のキャンパス・ミニストリー

伊藤 悟　大学宗教主任

筆者が礼拝奉仕をした際のWeb広告＊

2017年9月から2018年8月末までの一年間、米国ノースカロライナ州ダーラムにあるデューク大学で在外研究期間を過ごしました。激動の時代を迎えている米国での数多くの経験のなかから、ここではデューク大学のキャンパス・ミニストリー（宗教活動）に絞って報告することにします。

デューク大学は、1838年創設のブラウン学校に端を発します。ブラウン学校はその後発展を続け、地元の資産家ワシントン・デュークとその息子ジェームズ・デュークの巨額の出資によって1924年にいまのデューク大学のかたちになっていきました。現在、約16,000人の学生を有する米国有数のリサーチ大学であり、大学院生が約6割、残りの4割が学部生、教職員数は3,800人。キャンパスは青山キャンパスの約500倍という広大な広さをもち、キャンパスの中の移動にもバスや車が必要です。ゴシック様式の建物で統一された美しいキャンパスはその美観を損なわない仕方で現代建築も融合させ、最新鋭のITシステムも配備され、あらゆる点で米国大学のスケールの違いを感じさせられます。現在スピード感をもって大学改革・キャンパス再開発が進められており、"Traditioned Innovation"（伝統を豊かにする改革）を合言葉に、築き上げてきたデューク大学の伝統から分離しない改革のあり方を目指しています。

デューク大学は神学大学院を兼ね備え、歴史的にはメソジスト教会との関係が深いのですが、いわゆる青山学院のようなキリスト教信仰に基づいて設立されたキリスト教学校・キリスト教大学ではありません。しかしスクールモットーに「学問と信仰」を掲げて、宗教に対して、とりわけキリスト教に対しては大きなリスペクトがあり、キャンパス中央にそびえ立つ巨大なデューク・チャペルがそれを見えるかたちで表しています。毎日昼と夕方には65mの高さのベルタワーにあるカリヨン演奏の音色がキャンパス中に響き渡ります。そしてこのチャペルを拠点にしてミニストリーの様々なプログラムが展開されているのです。毎週日曜日にはデューク・チャペル教会（大学とは別組織）が礼拝を行っています。礼拝出席者数は毎週約1,000名で、その様子は毎回YouTubeでライブ配信されています。米国南部で有数の高度医療を提供するデューク大学病院の病棟にも礼拝メッセージがメディア配信されます。

デューク・チャペル

デューク・チャペルでの礼拝＊

教会のメンバーとデューク学生の混合の聖歌隊が二つあって、毎週美しい賛美の歌声をチャペルいっぱいに響かせます。「メサイア」などのコンサートもチャペルで行われますし、春と秋に行われるジャズバンドが入ってのジャズ礼拝はデューク・チャペルならでは特徴的な礼拝で多くの市民が楽しみにしている企画です。チャペル内にある三つのパイプオルガンはいずれも荘厳な音色を奏でて会衆の霊性や賛美をリードします。オープン・キャンパスならぬチャペル・オープンハウスが一年に一度開かれて、パイプオルガン演奏、ショートメッセージ、チャペル・ツアーが行われてチャペルのすべてが一般にも開放されます。大学人事部主催で行われる教職員とその家族だけを対象とした癒しのコンサートも特徴的なプログラムの一つですし、クリスマス・イヴの四回の礼拝には他州からも人々が訪れチャペルが溢れかえります。年間のべ24万人がチャペルを訪れ、礼拝、コンサート、イベントなどの開催数は年間のべ1000件を越えるといいます。

日本の多くのキリスト教大学のキャンパス・ミニストリーは「自前」で行われています。学生向けの独自のプログラムを持ち、大学の教育プログラムの一環として展開されます。それに対しデューク大学をはじめとする米国の比較的大きな大学では「出前」のキャンパス・ミニストリーが行われます。つまりキャンパスに外部から宣教師や牧師や宗教団体が入ってきて独自のプログラムを展開するのです。もちろん年度ごとに大学が承認した団体に限られるのですが、私の滞在していたときには24の教派や団体がそれぞれに活動を行っていました（Religious Life Group）。メソジスト、カトリック、改革派、ルター派といったキリスト教諸教派に加え、イスラーム、仏教、ユダヤ教グループの活動も活発です。それぞれ週1～2回のプログラムを企画し、チャペルはそのために集会室などを開放します。活動のための資金集めは各団体が独自でファンドレイジングを行います。いくつかの団体が共催して超教派や超宗教のイベントを開催することもあります。スタッフの合同ミーティングも月に一度行われて互いの情報交換をしたり直面している課題などについて話し合ったりします。

デューク・チャペル主催の学生向けオルガニスト養成講座、礼拝リーダー育成プログラム、読書会、地域の奉仕・支援活動、宣教旅行、インターンシップ・プログラム、また著名人を招いての様々な講演会やシンポジウムなど多彩なプログラムも年間を通じて企画されます。地域のホームレスの方々への支援やクリスマス・プレゼントを募る活動には子どもたちも積極的に参加します。信仰と学問・芸術・文化・地域・社会問題・奉仕活動・世界との架け橋になっているのがデューク・チャペルなのです。そのためにSNSやウェブサイトを駆使しており、その情報発信力には驚かされました。学生たちはチャペルを拠点にしながら、共に祈り、共に礼拝し、共に食し、共に学び、共に活動することを通して、それぞれが霊的に成長し、社会のサーバントリーダーとなれるようにとそれぞれの賜物を磨いていきます。一方、厳しい学業や研究に疲れたり、精神的に行き詰まったりしている学生・院生・教職員にとっても、チャペルは大事な安らぎや自己省察や信仰を求める場となっています。

いくつかの大学院の入学式や学位授与式もチャペルで行われます。結婚式もさることながら、大学関係者の葬儀が行われることもあります。デューク・チャペルは、市民も含めて多くの人たちから愛され、文字通りデューク大学の「中心」にそびえ立ってデューク大学の存在とその意義を明示しています。青山学院とは規模も環境も文化的背景も異なりますが、キリスト教大学ではないにもかかわらず、その精神的支柱をしっかり据えて、活発に宗教活動を展開している点で、デューク大学から多くのことを学ぶことができました。

ぜひデューク・チャペルのWebサイト、チャペル誌『Chapel View』もご参照ください。
https://chapel.duke.edu
https://chapel.duke.edu/magazine

キャンパス・ミニストリーに携わるチャプレンたち

デューク・チャペル聖歌隊＊

＊の写真はデューク・チャペルWebサイトより転載（Photo:©Duke University Chapel）

Campus ministry of Duke University

シリーズ　祈り

Irish　Blessing

May the road ever rise to meet you.
May the wind be at your back.
May the sun shine warmly on your face.
May the rain fall softly on your fields.
And until we meet again,
May God hold you firmly
in the palm of His hand
and give you peace.

アイリッシュ・ブレッシング

あなたの前に歩むべき道が常に開かれるように。
風があなたの背中をやさしく押すように。
太陽があなたの顔を暖かく照らすように。
雨があなたの田畑をしとしとと潤すように。
そしてまた会う日まで、
願わくは、慈しみの神が、あなたをしっかりと
その御手の内に置き給い、
あなたに平安を賜るように。

（元学院宗教部長 鈴木 有郷　訳）

この伝統的なアイルランドの祈りはもともとゲール語で書かれました。「ブレッシング」は神様からの祝福を意味します。この祈りは民数記6:24-26に記されている祝禱と似ていますが、自然世界のモチーフを用いています。5世紀の聖パトリックに由来するとも言われますが、実際は著者が不明です。著者は別として古代から世界中に愛されている祈りです。

（副院長・大学宗教主任　シュー土戸 ポール）

編集後記

青山学院で学んだ私たちは、聖書を読み、賛美歌を歌い、礼拝に参加してきました。キリスト教に接したこと、知ったことは何にも代えがたいことです。それは、「人は、たとえ全世界を手に入れても、自分の（永遠の）命を失ったら、何の得があろうか」というイエスの言葉があるからです。これは、求めるべきものは世の人たちのそれとは逆とも言える驚くべき指摘・教えです。この学び舎を巣立つ皆さんと共に、何よりもまず永遠の命を得るものとなりたい、ならせて頂きたいと願う者です。　（中等部教諭　有賀 実男）

Wesley Hall News　第129号
2019年3月1日発行

発行　青山学院宗教センター　学院宗教部長　大島 力
東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-6537（ダイヤルイン）
（URL）http://www.aoyamagakuin.jp/rcenter/index.html
（E-mail）agcac@aoyamagakuin.jp
編集　ウェスレー・ホール・ニュース編集委員会
印刷　株式会社 万全社

別れと出会いの一歩——卒業

思い出がいっぱいの学院生活も、あとわずか。新しい一歩を踏み出す人、すてきな仲間を送り出す人。各部の方に、いろいろな思いをききました。

幼稚園 Kindergarten

卒園をむかえる今

岡本 紗英子
幼稚園保護者会会長

幼稚園での3年間は、娘だけでなく私にとっても成長の3年間でした。年少の頃は幼稚園の往復だけでも大変で、朝は満員電車の中で必死に我が子を守り、帰り道も娘を抱っこして駅のベンチで寝かせ、気がつけば私もウトウトしていることもありました。幼稚園ではお片づけしない、帰りのお集まりでは座らない、お迎えの私をみれば「お腹すいた、抱っこ」と言い、他のおりこうなお子さんが羨ましくなったりもしました。

しかし喜びもそれ以上にありました。季節の移ろいを肌で感じながら、幼稚園に向かう途中でお花や石を見つけては幼稚園の先生に持って行ったり、仲良しのお友達と一緒にお弁当を食べたり、病気で欠席したお友達が早く治るようにとお祈りしたり、困っているお友達がいたら先生を呼びに行ったりと「自分中心」だった世界からお友達や先生と喜び、悲しみを共有することができるようになりました。

また私自身も、他のお母様から子育て情報、保護者としての姿勢など多くを学び、時に励まされ、そして楽しい時間を過ごしました。

今後、子どもが大きくなるにつれ、親は徐々に手を離していかなくてはなりませんが、手を繋いで通った幼稚園での3年間が幸せに満ち溢れていた事、また多くの学びを得られた事を神様に感謝し、今後も娘の成長を一番近くで見守っていけたらと切に願います。

丸山奈那子、矢部尚子 幼稚園年長組担任

幼稚園で過ごした3年間、神様と出会い、聖書のお話を沢山聞きました。ドキドキする話や、不思議な話、「神様ってすごい」と思う話…心に残っているお話が皆さんにはそれぞれあります。ある日の昼食時に心に残った礼拝のお話について話したことがありましたね。

天地創造：神様、何でも作れるのすごい！声はどうやって作ったの ？ 会ってみたい。ぎゅーってしたい。
ダビデとゴリアテ ： ダビデさんはゴリアテを怖くなかったと思う。だって神様が守ってくれるから。
5つのパンと2匹の魚：パンはちーさくちぎって食べたんじゃない？魚はナイフもないから神様が増やしたんだと思う。魚のサンドウィッチにしたと思う。魚はサメくらい大きいのが2匹だったと思う。
ノアの箱舟：（舟の中で）怪我をしたり病気になった時はどうしたのだろう。保健室はあったのかな。

初等部の小澤先生からお話を聞く機会もありました。メトロノームを使って4秒に1人、子どもが亡くなっているというアフリカの貧困のお話を聞いた時、「どうやったらそれは止められるんだろう。お医者さんが沢山いればいいのに。病院はあるのかな」と自分たちには何ができるのか考えていましたね。大きくなったらお医者さんになりたいと言っている友だちもいました。

一人ひとりこの幼稚園で神様の子どもとして大きくなったことを本当に嬉しく思います。これからも神様のおまもりの中、イエス様が共にいて下さいますから安心して歩んでいかれますように、とお祈りしています。

初等部 Elementary School

神さまの愛

武田 健仁 初等部6年

ぼくは、5年生で宗教プロジェクトに入りました。そして、フィリピン訪問プログラムに参加し、お金がなくて困っている人や、学校に行きたいけどいけない子どもたちに出会いました。何とかしたい、と思っていましたが、どうしたら良いか悩んでいました。しかし、グローバルデーの礼拝で、ぼくはある詩に深く感動し、それがヒントとなることを見つけました。その詩の内容は、こうです。

神様と一緒に歩いたあとの足あとを見ておどろいた。自分が一番苦しかった時に一人分の足あとしかない。「神よ、どうして一緒にいて下さらなかったのですか」と聞くと、神はお答えになった。「それは、私があなたを抱きかかえて歩いていたからだよ」

この詩はぼくの、そしてフィリピンの友達、世界中の困っている人の心の栄養になってくれると思います。つらいことがあっても、神様がだきかかえてくださっていると思えば、自分をはげますことができるからです。ぼくは、改めて神様の愛の力を知りました。

ぼくたち初等部生は、神様の愛をいつも受け続けています。神様からは平等に愛を受けていますが、その愛の大きさを十分に受け取れるかどうかは、僕たちの受け取り方次第なのだ、とぼくは思います。

在校生のみなさん、神様の愛の受け取り方を自分なりに考えて、神様と一緒に歩み、豊かな初等部生活を送ってほしいと思います。

あなたの御言葉は、わたしの道の光

飯澤 正実 初等部教諭

6年生の皆さん、「シャローム!」このあいさつを覚えていますか。初等部最初の宿泊行事「なかよしキャンプ」で交わした平和のあいさつです。キャンプ2日目の夜、「信仰の盾」（エフェソ6:16）の話を聴いた後、みんなでろうそくの光を1本ずつ灯すと、十字架の形をした光が輝きました。そして、待望の新約聖書をいただき、一人ひとりが神さまに感謝の祈りを捧げましたね。

あれから6年間、皆さんは、初等部の毎朝の礼拝で聖書の御言葉を聴き、讃美を捧げ、祈り続けてきました。これから先も、たとえどんな暗闇の中にあっても、救い主イエス様の光は輝き続け、わたしの歩みを照らす灯となってくださいます（詩編119:105）。 ご卒業おめでとうございます！　シャローム！

ありがとう、六ねんせい

加賀山 侑志 初等部1年

「ハンカチをもってはしるんだよ」。ハンカチおとしのルールがわからなかったぼく。6ねんせいのパートナーのたけ田けんとくんは、わからないことをおしえてくれて、1ねんせいをとてもかわいがってくれました。みんながおいかけてきても、うまくころんだまねをしてくれました。

れいはいでせいかたいとして、いつもみんなのためにうたうすがたはかっこよかったです。よう上小学校のみおくりで、けんとくんのバッグはぼくがはいるくらい大きいのでびっくりしました。「6ねんせいはこれからどんなたびをするのかな」とおもいました。

これまでありがとう、6ねんせい。かみさま、6ねんせいとの出あいをあたえてくださりありがとうございます。

中等部 Junior High School

スタート地点に立つ今

原田 ひまり
中等部3年

中等部に入学し、気がつけばこの校舎で過ごすのも数えるとあと少しとなり、卒業を目前に控えている。

3年間の中で印象に残っていることは、大きなイベントではなく、実は友達の存在だったりする。入学前は友達なんて簡単にできると思っていたが、一学年が少なくクラス替えがない環境にいた私は、友達の見つけ方がわからず苦労した。声をかける勇気なんてなかった私は、他のクラスメイトが仲間を作っていく姿を見つめながら本を開いていたのは、弱い自分を隠すためだったのかな、と今になって思う。

しかしこんな私に話しかけてくれたクラスメイトがいる。私の話をにこやかに聞いてくれたそのクラスメイトは、中等部でできた初めての友達といえる存在だった。私は彼女と話しながらこんなに自分が話せるのか、と感動したことを今でも覚えている。無論この3年間で友達とトラブルが無かったわけではない。トラブルが原因で学校に行くことや話すことが怖くなっていた時期もあった。しかし弱い私を救ってくれたのも確かに友達だ。今の私があるのは、そんな友達の存在があるからだと断言できる。

私たちは、もうすぐ別々の道へ進むことになる。大半が高等部に進むとはいえども、卒業が一つの区切れであることには違いない。不安が無いわけではないが、この3年間大勢の友達に支えられてきたことを再確認した今、そのことを思うと、自分が決めた道を、自信を持って大きく踏み出せるような気がする。

卒業生のみなさんへ

關 妃
中等部教諭

3月に卒業を迎える皆さん、おめでとうございます。あらゆることは、無関係のように見えて後で振り返ってみるとすべて線のように繋がっているとはよく言われることですが、起きたことで意味のないものは何一つなく、これまで皆さんがこの青山学院で得た出会いや体験は、今後不思議な形で結ばれてゆくものと思います。

卒業は節目の〝終わり〟であると同時に〝はじまり〟を想起させるものでもあります。次なるステージに進んでゆくご自身とその環境に期待しつつ、これまでを省みることもしながら、4月からの新生活に備えてみてはいかがでしょうか。

これからの進路が皆さんにとって素晴らしいものとなりますよう、ずっと応援しています。

高等部 Senior High School

神様は私を真理へと導いて下さる。

小田 佳祐
高等部3年

高等部に入学して、早くも3年が経ちました。この高等部では、日々の礼拝の時間や、ABFでの活動、聖書の授業、3年生の「聖書特講」を通して神様とは何か、信じることとは何かを少しずつ考えることができました。そして、3年間聖歌隊として神様に賛美を捧げてきたからこそ感じることもありました。

入学してから、この3年間様々な苦難や試練がありました。部活や学業など様々なことで悩み、失敗したこともありました。しかし、日々の礼拝での先生方のお話は私を励まし、元気をいただきました。そして、後になって考えると様々な試練や失敗は自分にとって必要なもので、いつも神様が解決の道を用意して下さっていたのだと気づきました。

これに気づくことができたのも、聖書の授業やABFのお陰だと思っています。そして、3年生での聖書の授業と聖書特講の授業は私の価値観に大きな影響を与えました。定言命題の考え方、十戒が真に意味すること、そしてイエス様の復活について深く学ぶことができました。特に、自分の中で疑問だった、「イエス様の復活を信じること」について納得のいく考えが生まれました。

さらに高等部では、キリスト教というフィルターを通して世界を見つめなおすことを教えて頂きました。そして私は将来、弱い者の隣人となり、その隣人に仕えていこうと決意しました。

見えないものに目を注ぐ

田中 由紀
高等部教諭

人生でもっとも変化の大きな高校時代に「目に見えないものに目を注ぐ」教育を受けたことの意味の大きさは計り知れないと思います。67期の皆さんにはよく「志を持つ」よう言ってきましたが、今皆が目指す自己実現のその先に、もっと本質的な問題が待ち受けています。

自分の本当の願いとは。人を愛するとは…。そういうことを求める日が来るでしょう。それらこそ、毎日「ほっと一息」と目を閉じて過ごしていたあの「礼拝」の時間に繰り返し語られていたことです。人生で大きな決断を下すとき、また窮地に立たされた時には、ここで培われた「見えないものに目を注ぐ」という聖句を思い出してくださいね。健闘を祈ります。ご卒業おめでとう!

女子短期大学 Women's Junior College

愛を持って接する

青波 英里奈
女子短期大学 現代教養学科2年

2年の月日が経つのは本当に早かったです。私は入学してから知ったことが沢山あります。その中で一番印象に残ったのがハンセン病でした。ハンセン病について恥ずかしながら私は何も知りませんでした。間違った知識から差別されてきた人たち、きっと私が想像できないくらいの痛みを抱えているのでしょう。

世界にはまだまだ差別が残っています。例えば、男性が化粧をすることへの嫌悪感、女性なら裁縫ができて当たり前、そういった考えを持っている人もいると思います。では、神様が創った世界はそのような世界でしょうか。皆が皆同じじゃないといけない、そのようなことを神様は望んでいないと思います。あなたがあなたらしく生きていること、どのような人にも愛を持って接することが私は必要だと思っています。また、ここで学んできたことを次の世代の人たちに伝えていくのと同時に、差別の連鎖を止められるそのような大人になりたいです。

そして私が高校生のときから心に刻んでいる聖書箇所があります。それは、「柔らかな応答は憤りを静め傷つける言葉は怒りをあおる。」（箴言15:1）です。喧嘩のときなどついつい売り言葉に買い言葉になってしまっていたのですが、この聖句を知ってからはまず冷静になり、相手の気持ちを考えるようになりました。

キリスト教と出会い、私の考えは良い方向へと変わっていきました。

どんな時でも

山本 ひかる
女子短期大学 子ども学科2年

私には大好きな聖書箇所があります。「恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる。」（イザヤ書41:10、口語訳）です。

私たちが歩む道は楽しい事ばかりではありません。辛い事も悲しい事もあります。しかし、どんな時でも神様は共にいて下さると私は確信しています。私が祈り求めた時、祈りに耳を傾け、一番良い方へと導いて下さっていたからです。

最善の道を与えて下さる神様に、いつでも頼り、祈ってみて下さい。自分の思いを神様にぶつけた時、必ず神様は自分にとって一番の答えを示して下さるはずです。

大学 University

疑いから安心に

後藤 友香里
大学 教育人間科学部4年

高校がミッションスクールであったことをきっかけにクリスチャンになった私は、大学もキリスト教主義の学校に行きたいと願い、この青山学院大学での歩みがゆるされました。ぼやっとした期待を胸に始まった大学生活は、疑いが安心に変えられた4年間でした。

青山キリスト教学生会（ACF）という団体に所属し、特に信仰的に「新しい出会い」が多く与えられました。新しく出会う聖書箇所、賛美、神様を見上げる仲間、すべてが新鮮でした。「こんなに真剣に神様を信じている人たちがいるんだ」と素直に驚いたのを覚えています。神様が私のことを、一人の神様の子どもとして大切に思ってくださることをどこかで疑っていた私は、4年間の多くの交わりの中で、神様の安心を知りました。神様の愛は変わることがないって本当のことなんだって、嬉しくて仕方ありませんでした。

振り返ると、どの瞬間を切り取っても神様の足跡が残されていました。そして、一緒に神様を喜ぶ友の存在がありました。神様との出会いを通して、いろんな疑いが、不安が、安心に変えられました。神様は私の人生を良いもので満たし、大切な子どもとしていつも迎えてくださいます。この神様は青山学院を、皆さん一人ひとりを愛しておられます。

皆さんの歩みの上にもこの変わらない神様の安心と喜びがありますように！

私の「学生時代」

河本 洋子
大学 教育人間科学部教授

神様の一方的な憐れみにより、青山学院大学に31年間在職させていただきましたが、この3月で無事定年を迎えます。

教育学科の宗教委員として、聖書研究会、修養会、クリスマス会、送別会などで、全国の指定校から集まった学生たちと楽しく過ごしました。また、夏には宗教センター主催、宗教主任、教職員の方々、ゲスト講師の方、学生委員、学生たちが企画・運営する清里サマーカレッジに数多く参加させていただき、聖書の物語に新しい発見をしたり、サマカレ聖歌隊で讃美をしたり、自然散策、ゲームやキャンプファイアーなど良き思い出がいっぱいです。

私は中学1年から教会に通い、神様の愛に触れ、高校時代は教会の聖歌隊員として、日曜日に試合のある運動部ではなく音楽部に入り、高校1年のクリスマスに洗礼を受けました。大学では聖歌隊を続けながら、陸上部にも入り、聖書研究会にも参加していました。

陸上部と言えば、近年青山学院大学は、箱根駅伝で注目されています。選手たちは日夜努力を重ね、母校の名誉をかけて、与えられた区間を、多くの人々の声援を受けながら、襷を繋ぐために死力を尽くして走ります。

私たちもまた、この脈々と続いてきたキリスト教主義に固く立ち、「地の塩、世の光」をモットーとする青山学院の建学の精神を継承すべく、与えられた馳せ場を走り抜きたいものです。次世代の方々が、この信仰の襷、バトンを繋いで前進して下さることを願ってやみません。

CHRISTIAN ACTIVITIES CENTER NEWS 宗教センターだより

女子短大より

卒業礼拝
3/19 火　13:30〜14:30　青山学院講堂
説教　吉岡 康子（女子短期大学宗教主任）

始業礼拝
4/3 水　10:00〜11:00　青山学院講堂
説教　吉岡 康子（女子短期大学宗教主任）

チャペル・ウィーク（前期）
5/13月–17金　ガウチャー記念礼拝堂

大学より

卒業礼拝
3/25 月　① 9:00〜 ② 12:00〜　ガウチャー記念礼拝堂

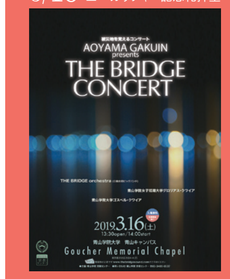
キリスト教概論 I オリエンテーション
4/2 火 – 4 木
〈青　山〉ガウチャー記念礼拝堂
〈相模原〉ウェスレー・チャペル

新入生歓迎礼拝
4/8 月 – 12 金
〈青　山〉ガウチャー記念礼拝堂
〈相模原〉ウェスレー・チャペル

チャペル・ウィーク（前期）
5/13月–17金
〈青　山〉ガウチャー記念礼拝堂
〈相模原〉ウェスレー・チャペル

宗教センター・グループ活動
いずれの集会も自由に参加できます。
聖書に親しむ会
わかりやすく、楽しく聖書が学べます。
キリスト教文化に親しむ会
文学、自然科学、社会問題、音楽などをキリスト教信仰との関わりにおいて語り合い、考えます。

本部より

被災地を覚える祈り会
3/11 月　12:00 〜　本部礼拝堂

被災地を覚えるコンサート THE BRIDGE CONCERT
3/16 土　14:00 〜　ガウチャー記念礼拝堂